

早期に収穫した稲WCSを活用し乳牛の飼料費を削減

高騰する輸入粗飼料の代替として飼料用稲を早刈りし、稲WCSとして給与することで輸入粗飼料と同等の泌乳成績を維持でき、飼料費を安価に抑えられることを明らかにしました。

稲WCSとは … 稲穂と茎葉を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料のこと。

背景

- 高騰する輸入粗飼料の代替として注目される稲WCSは、中山間地域の条件不利な農地においても栽培可能であり、耕作放棄地の発生防止や自給飼料の確保に有効。
- 現行の栽培基準では、作業適期が短く（10日程度）、刈り遅れによる栄養価の低い飼料となるため、多量のエネルギーを必要とする泌乳期の給与に制限があることが、酪農現場での利用拡大を妨げている。

課題等

- 稲WCSの刈り遅れを防ぐには、収穫適期の幅を拡大することが必要。
- 早期収穫稲WCSの消化性や牛の栄養状態、泌乳成績等への影響を明らかにする必要。

給与試験により、早期収穫稲WCSは消化率、泌乳成績とも輸入粗飼料と同等であることが判明

● 刈り遅れをなくして品質の確保が可能に

＜稲WCSの収穫時期＞

品質○ 品質○ 品質×

収穫適期拡大

地域の
栽培ごよみに
反映済

(従来収穫)
(早期収穫)

7月 8月 8月 9月
下旬 月上旬 下旬 月上旬

● 早期収穫稲WCSは年間を通して多給可能に

＜稲WCSの給与期間＞

年間約200万円

の
飼料費低減効果

※輸入粗飼料4kg⇨稲WCS10kgに
置き換えた場合（約50頭/年）

研究成果

- 早期収穫稲WCSは消化率、泌乳成績ともに輸入粗飼料と同等であることを確認しました。
- 年間を通じた稲WCSの給餌が可能となり、飼料費の低減が図れます。

今後の展開

- 生産者を対象とした研修会等を通じて、府内酪農家および耕種農家へ情報を提供し、早期収穫稲WCSを活用した飼養管理を推進することで、酪農経営の安定化を図ります。